

7月 12日

「板橋交流事業」市内で野菜の収穫などを体験



ブルーベリーを摘み取る参加者たち

市内の自然を満喫
毎年恒例となっている「板橋交流事業」の一環の観光交流ツアーに、45人が参加し、かすみがうら市を訪れました。

参加者は、午前中に下土田の観光農園でラディッシュなどの野菜を収穫、時折現れるバツヤやカエルなどに子どもたちは興味津々でした。同農園で昼食をとった後、穴倉のブルーベリー農園で摘み取りを体験し、冷たいブルーベリー葉茶やブルーベリーアイスで暑さをしのぎました。最後は霞ヶ浦の自然に触れながら歩崎公園を散策し市を後にしました。

参加した女性らは、「凍らしておいたブルーベリーを毎朝かかさず食べている。ヨーグルトに入れたり、そのまま食べたり。直接摘み取ったものは甘しい安心して食べられると話していました。」

ソーセージとアイスづくりを親子で体験

7月 19日



ソーセージの燻製を珍しそうに
間近で眺める子どもたち

自分たちで作れば格別な味
市では、霞ヶ浦公民館講座「ソーセージ・アイスクリーム手作り教室」を開催、あじさい館の調理室に17組の親子が集まりました。

今回は、羊の腸に豚のひき肉を詰めたウィンナーソーセージと、次に卵や牛乳、生クリームを氷で冷やしながら混ぜてアイスクリームを作りました。県畜産センター（石岡市の職員から指導を受けながら、肉をこねて、専用の道具で腸に詰めるなど、親子協力し合って作業を進めました。子どもたちは、時間をかけて作ったものに舌鼓を打ちました。

参加した浦悠衣ちゃん（稲吉東）は、「アイスクリームは自宅でも作ったことはあるけど、今日作ったものもおいしかった。これなら簡単なので家でも作れそう。ソーセージは、肉をそのまま食べているような感じがした。」と話してくれました。

7月 27日

「青少年育成を考えるつどい」が開催



中学生の主張に耳を傾ける参加者

中学生の意見に素直に耳傾ける
青少年育成かすみがうら市民会議と市PTA連絡協議会の共催により約200人の関係者の参加のもと、「平成20年度青少年育成を考えるつどい」が多目的会館で開催されました。

第一部は、8人の中学3年生からの主張発表で、日常生活の中で感じている等身大の素直な意見が発表され、なごやかな空気に包まれました。

第二部は、子どもたちの心、大人の心と題した渋谷照夫先生（のびる学園長）の講演会が行われ、「大人が変われば子どもも変わる」という10箇条が披露され、参加者からは、「大人としての行動を今一度チェックしてみたい」とそんな意見が聞かれました。

第23回国民文化祭かすみがうら市主催事業

帆引き船 フェスタ

11月1日
11月9日

第4回市生涯学習
フェスティバルを
同時開催

に向け準備着々！



講座紹介



フェスタで参加者に模型づくり
を指導するのは市内の中学生



粘土と和紙の素朴な材料を使って
光と影の幽玄の世界を作り出す
ランプシェードを作成



帆引き網漁法が盛んだった頃、
漁師が実際に歌っていた
"わかさぎ大漁節"と"霞ヶ浦帆引き歌"を練習



帆引き船（帆引き網漁法）を秋田県八郎潟に
伝え広めた本市田伏出身の坂本金吉氏の
実孫坂本九氏の歌を練習



色とりどりの布を張り合わせ
素敵な模様の帆を作成

ランプシェード



この秋開催される国民文化祭かすみがうら市主催事業「帆引き船フェスタ」に向けて、「帆引き船と霞ヶ浦」をテーマに、市民の有志の方で構成される企画委員会が中心となり、多くの市民の方が参加できるようなさまざまな催しものが計画されています。

そのひとつに、七色帆引き船をモチーフにしたタペストリー（パッチワーク）やランプシェード、アロマランプ（陶芸づくり）の講座があります。小学生から大人まで、思い思いの作品を制作していて、これらは期間中会場に展示されることとなっています。また、テーマにあった歌を披露しようとコーラスや民謡の講座も行われています。ほかに、市内の小中学生、文化団体、サークル、スクールなど、多くの団体が、フェスタでの展示や発表に向けて着々と準備を進めています。

フェスタ期間中、あじさい館コミュニティ広場に実物の帆引き船を展示します。11月9日には実際に帆をあげ、そのまわりで帆引き船の模型づくり教室やダンス、音楽、民俗芸能、よさこいなどの発表が繰り広げられる予定です。

市民と帆引き船との新しい出会い

